

第4学年「てつがく創造活動」学習活動案 授業者 神崎芳明 富田京子 前原文江 山賀愛
2月16日(金) 3階教室 校庭・体育館 9:50~10:50

1 活動名 立ち止まって考えよう (プロジェクト型活動)

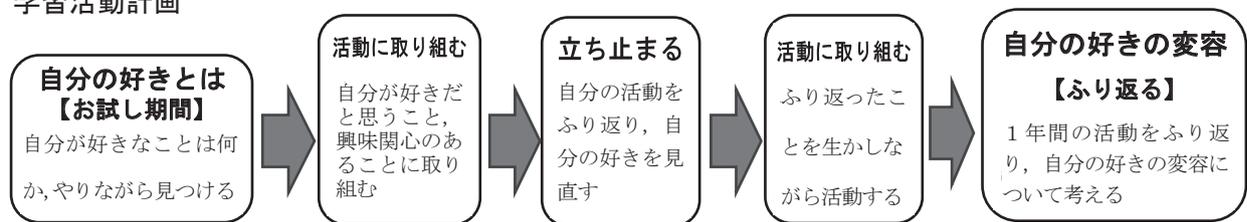
2 活動について

「てつがく創造活動」は子どもたちの興味・関心に基づき取り組んでみたいことを決め、主体的に活動し、探究していくことが基本的な考え方である。4年生は4月当初、興味・関心がさまざまに広がっている子・なかなかやりたいことが定まらない子どもがいるという実態があった。そこで、子どもたちが自分の興味・関心と向き合うためにプロジェクト型活動の軸を「好き」とし、子どもたちが常に立ち止まって考えられるようにした。自分が好きなことは何かを探るために「お試し期間」を設け、自分の「好き」探し・探究が始まった。活動は、水曜日の6時間目、金曜日の5・6時間目、子どもたちが自由に活動に取り組める時間を十分取るよう配慮した。活動時間の保障と同時に子どもたちには、自分の活動の記録を毎回少しでもいいので残す事、区切りの時(月末や学期末)には、それまでの活動を振り返りで他者と共有する事、どんな形でもいいので他者に自分のやってきたことをひらく事をしながら自分にとっての「好き」を問い直し次への活動の見通しを持つよう促してきた。

子どもたちは、実際に活動していく中で、いろいろな葛藤をしてきた。自分がやりたいと強く思うから起きる揉め事、興味があってやってみたが何か違うと違和感を持つ事、テーマの質というより人間関係に左右されることもある。それらの葛藤も必要な経験と受け止めながら、自分のやりたいことに向かい「好き」を探究していく姿勢を大切にしてきた。

本時の活動では、短時間であるが、子どもの活動と残り1ヶ月となった今年の区切りに向けての見通しを持つための振り返りの場面を設定した。子どものこだわりや興味の変化に寄り添いながら、やりたいことを実現していくことを支えるために子どもの「好き」をかかわりの手がかりにしながら伴走していく教師のあり方を考えて行きたい。

3 学習活動計画



4 本時の活動について

(1) 本時のねらい

- ・自分の好きを探究しながら活動する。
- ・自分が活動してきたことを他者に伝え共有する。

(2) 予想される本時の展開例

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 活動を行う。 ・自分たちの好きを探究する。 2 ふり返りをする。 ・自分たちが行った活動について伝え合う。 (各担当グループの活動及び資料は当日配布)	・子どもの背景を考えて、活動を見守りながら、必要に応じて関わる。 ・他者に発信することから、1年間同じ空間にいた仲間に対して共感したり、アドバイスしたりできるよう声かけをする。